



沖縄開発庁長官
野中 広務

去る一月十四日の小渕改造内閣の発足に伴い、内閣官房長官に兼ねて沖縄開発庁長官を拝命いたしました。沖縄をめぐる諸課題は、本内閣においても引き続き最重要課題として位置付けられており、沖縄担当大臣としまして、沖縄政策協議会などを通じ、幅広い観点から政府部内の調整に尽力しているところではありますが、今回、沖縄開発庁長官を兼ねて拝命いたしましたことは、沖縄担当大臣の職責と併せ、沖縄対策の総合的、一体的な推進の任を担うこととなるわけで、その責任の重さに身の引き締まる思いであると同時に、私にとって大変な喜びであります。今後とも、沖縄県民の皆様温かい御支援・御指導を賜りまして、その職責を十分に果してまいりたいと考えております。

連して衆議院における安保土地特別委員会の委員長や、党における沖縄県総合振興対策特別調査会の事務総長など責任ある立場を預かりながら、沖縄に係わる様々な課題の解決に腐心し、これに真剣に取り組んでまいった次第であります。「沖縄」を思うとき、私の心の中に終始去来し、熱く込み上げてやまない出来事があります。それは昭和三七年、まだ米国の施政下にあった沖縄を初めて訪問した時のことでもあります。沖縄戦では、私の郷里からも二、五〇〇余人が犠牲となっており、当時私は、先輩有志の皆さんと共に宜野湾市の嘉数の丘に慰霊塔を建てようと考えていました。那覇空港からタクシーに乗り、宜野湾の街に入ろうとした所で、運転手の方が突然ブレーキを踏み、肩を小刻みに震わせていたのです。「お客さん、あの田んぼのあぜ道で私の妹が殺されま

就任ご挨拶

した。運転手さんはこう言ってハンドルを握りしめ、声を上げて泣いたまま、車は小一時間ほど動きませんでした。その光景は今でも私の脳裏に焼きついて離れません。

この度沖縄開発庁長官を拝命いたしましたして、私は改めて当時の体験を思いおこすとともに、沖縄の方々がこれまで払ってこられたこのような大きな犠牲と多難な歩みに思いをいたすとき、政府が果たしていくべき責任がまだまだ重いことを痛感するものであります。

政府は、これまで三次にわたる沖縄振興開発計画を策定し、これに基づき総額五兆円を超える国費を投入するなど、沖縄の振興開発のための諸施策を積極的に推進してまいりました。そしてそれらの諸施策と県民の不断の努力と相まって、本土との格差も次第に縮小するなど、総体として着実に発展しているところであります。しかしながら、完全失業率が本土と比べて約二倍の状態にあることなど沖縄は未だに解決しなければならぬ多くの課題を抱えております。

沖縄開発庁としましては、今後とも第三次沖縄振興開発計画を着実に推進し、引き続き本土との格差を是正し、自立的発展のための基礎条件を整備していくことに努力してまいります。特に①沖縄の豊かな自然環境と独特の歴史や伝統文化など観光資源を有機的に関連

させ、観光産業の充実発展をはかること、②豊かで優秀な人的資源を生かし、特別自由貿易地域制度等の制度を最大限活用した特色ある産業の振興を図ること、③我が国とアジア・太平洋諸国との交流の拠点となるべく、地理的特性を生かした南の交流拠点の形成を図ることの3つを振興開発施策の柱と位置付け、沖縄の特性を生かした施策の展開を図っていくべきだと考えております。

近年、国政の中で沖縄の振興開発の重要性が増大する中、沖縄開発庁の役割は益々重要なものとなっております。わけでも、沖縄総合事務局は、沖縄における国の総合出先機関として、県民の身近な機関として振興開発の業務を総合的、一体的に遂行しており、沖縄県民の期待も極めて大きなものがあります。職員各位においては、一層自らの使命を自覚しつつ、日々の業務に精励するとともに、県民に親しまれる運営にも一層努めていただきたいと思います。

私は、沖縄県や市町村、関係団体の方々をはじめ沖縄県民の方とともに汗を流し、喜びも悲しみも痛みも分かち合い、一体となつて、その期待に十分に応えられるよう、微力ではありますが誠心誠意、全力を挙げて取り組んでいく決意を申し上げます。御挨拶といたします。